

漁港は魚の保育園



漁港漁場月報のバックナンバーは左のQRコードから読むことができます

漁港漁場月報

令和5年7月15日 発行
 毎月 1回15日発行
 発行人 公益社団法人 全国漁港漁場協会
 高 吉 晋 吾
 東京都千代田区神田鍛冶町3-6-7
 ウンビン神田ビル2階
 電話 東京(6206)0066
 ホームページ http://www.gyokou.or.jp/
 定価 1部 70円 (会員の購読料は会費の中に含む)

第23回

日韓漁港漁場漁村技術交流会議を開催

第23回日韓漁港漁場漁村技術交流会議が、6月22日(木)に(公社)全国漁港漁場協会(一財)漁港漁場漁村総合研究所の共催、水産庁の後援(二社)水産土木建設技術センター、全国漁港漁村防炎協会の協賛により、東京都内の東京国際フォーラムにおいて開催された。

この交流会議は、平成10年3月に第1回を東京で開催して以来、日本と韓国で交互に開催されており、漁港漁場漁村の整備・維持管理等の関連技術に関する諸問題について発表し、意見交換している。会議のテーマは、その時々々の両国の漁港漁場漁村を取り巻く状況を勘案して設定されており、今年度は「海業(うみぎょう)による漁村の再生・海や漁村の価値を魅了した水産業」をテーマとして、約60名の参加者により開催された。

主催者を代表して、高吉会長が「新型コロナウイルス感染症の発生により、2019年の韓国済州島での会議以来、3年間開催を見送ってまいりましたが、本日にこの会議の開催ができることを非常に喜ばしく思います。両国は、世界有数の水産国であり、消費者に安全・安心で良質な水産物を安定的に提供するなど重要な役割を果たして、近年は地球環境の変化、水産資源の減少などにより、大変厳しい環境にあります。このような状況を打開し、水産業とこれを支える漁村の健全な発展のために両国は密接に協力していくことが必要であり、特に基盤である漁港・漁場の整備について、両国の関係者が技術交流を深め、これは極めて有意義であり、末永く続けていきたいと考えております。このうなごから、今回のテーマを『海業(うみぎょう)による漁村の再生・海や漁村の価値を魅了した水産業・地域の活性化』といたしまし

た。会議の後は、海業と漁村の共生の地である神奈川県三浦市の三崎漁港などの視察も予定されており、会議や視察を通じ、お互いの技術の向上を図りたいと思っておりますと挨拶が行われた。続いて韓国漁村総合研究所長が「国土の三分が海に接する韓国と島国である日本において、海と水産業、そして漁村の重要性は到底語りつくせません。現在、韓国では、漁家、漁業者人



日韓両国の参加者

に合ったものと考えています。両国が持つ技術ノウハウを基に、持続的な発展の礎となることを願っていますと挨拶を行った。また、来賓として出席した韓慶任(キム・ギョング)代表者、田中部長より祝辞が述べられた。

その後、両国の出席者紹介が行われた後、技術交流会議に入り、(一財)漁港漁場漁村総合研究所の高吉理事長が議長となり進められ、次の内容で日本側3題、韓国側2題の発表が行われた。

三崎漁港を現地視察

技術交流会議終了後、韓国訪日団及び日本側参加者総勢21名は、バスで視察先である神奈川県三浦市三崎漁港(特定第三種漁港)に移動し、現地で、神奈川県東部漁港事務所佐藤康夫所長から同漁港の概要及びみくら・宮川フィッシュヤリナへの運営等についての説明を受けた。また、三浦市経済部長から三崎地区特定漁港整備事業計画、三浦市と海業についての関係、二町(ふたまちや)地区海業振興プロジェクトについての説明を受けた。

①(日本)「海業による漁村の再生」発表者・東京海洋大学副学長教授 豊小波
 ②(韓国)「漁村体験・養村の活性化推進」発表者・韓国海洋水産部水産政策室漁村漁港課事務官 張有景(チャン・ユギョングン)
 ③(日本)「新たな漁港整備長期計画と海業の推進」発表者・水産庁漁港整備部計画課課長補佐 河野大輔
 ④(韓国)「国家漁港の開発・管理の方向性」発表者・韓国漁村総合研究所長 鄭榮煥(チョン・ヨング)

その後、三浦市低温卸売市場(冷凍)口専用卸売市場の中を見学し、三浦市経済部海業水産課 稲田巡市場管理グループリーダーから冷凍マクロが市場に揚げられ、入札にかけて出荷されるまでの動線等詳細について説明を受けた。同施設は国からの補助金を有効に活用し建設され、高度衛生管理化により三崎フ

ドの価値向上等地域の漁業振興に貢献している旨を説明した。韓国側は同施設の使用面を韓国側が確保し、魚体管理に興味を持ち、多くの質問があった。

23日は、三崎漁港内(一)二崎フィッシュヤリナ・ウオウリから海中の様子を観望するラポートに上り、さかなぼり乗船し、海中に生息する魚の姿や同漁港内の水産関連施設等を海上から見学した。その後、三浦市や水産関係団体等が主体となっている株式会社三浦海業公社が管理運営するものにおいて、同社若澤泰義社長から、産

地直営センター設立の経緯や、公社の利益は地域住民に還元するなどの説明を受けた。韓国側からは海業の一環として地域経済振興に貢献している旨の具体的な運営方法等について質問があった。

最後は、視察の実施にあたり多大な協力をいただいた三浦市、神奈川県、三浦海業公社をはじめとする地元関係者の皆様に紙面を借ってお礼申し上げる。

参加者(敬称略)

(主な日本側参加者)
 日韓議員連盟会長代行 村松隆、同議員連盟副会長 高吉晋吾、同議員連盟事務局長 吉竹正明、同議員連盟研究部長 浪川珠乃(発表者)
 (主な韓国側参加者)
 韓国漁村総合研究所 理事 朴敬哲(団長)、同理事 崔聖愛、同漁村課長 河野大輔(発表者)、(公社)全国漁港漁場協会(会長)李培豪、同協会副会長 李培豪、同協会事務局長 李培豪、同協会代表者(発表者) 鄭榮煥(発表者)、同協会企画本部S&G経営課長 金惠恩、同協会企画本部調整課長 李汀鶴、韓国海洋水産部水産政策室漁村漁港課事務官 張有景(発表者)、同事務官 金煥俊、同事務官 金煥俊

漁港友の会 第49回定期総会開催

漁港友の会(橋本秋代)において来賓の田中部長(月)KRR本(月)東京 長、横山純計画課長、中村隆、同議員連盟副会長代行 村松隆、同議員連盟副会長 高吉晋吾、同議員連盟事務局長 吉竹正明、同議員連盟研究部長 浪川珠乃(発表者)
 (主な韓国側参加者)
 韓国漁村総合研究所 理事 朴敬哲(団長)、同理事 崔聖愛、同漁村課長 河野大輔(発表者)、(公社)全国漁港漁場協会(会長)李培豪、同協会副会長 李培豪、同協会事務局長 李培豪、同協会代表者(発表者) 鄭榮煥(発表者)、同協会企画本部S&G経営課長 金惠恩、同協会企画本部調整課長 李汀鶴、韓国海洋水産部水産政策室漁村漁港課事務官 張有景(発表者)、同事務官 金煥俊、同事務官 金煥俊



恒例の記念撮影

村松隆、同議員連盟副会長代行 村松隆、同議員連盟副会長 高吉晋吾、同議員連盟事務局長 吉竹正明、同議員連盟研究部長 浪川珠乃(発表者)
 (主な韓国側参加者)
 韓国漁村総合研究所 理事 朴敬哲(団長)、同理事 崔聖愛、同漁村課長 河野大輔(発表者)、(公社)全国漁港漁場協会(会長)李培豪、同協会副会長 李培豪、同協会事務局長 李培豪、同協会代表者(発表者) 鄭榮煥(発表者)、同協会企画本部S&G経営課長 金惠恩、同協会企画本部調整課長 李汀鶴、韓国海洋水産部水産政策室漁村漁港課事務官 張有景(発表者)、同事務官 金煥俊、同事務官 金煥俊

